

F A Q

(研究助成)

※ ビジヨナリーリサーチ助成は「F A Q (ビジヨナリーリサーチ)」も併せてご参照ください。

【応募について】

1.	Q : 同一年度複数の応募は可能ですか。(医学系研究助成と生命科学助成など)
	A : 全ての助成プログラムを通して、同一年度1研究者1件です。
2.	Q : 推薦者が別であれば、同じ部門から同じプログラムに2名以上応募できますか。
	A : 応募できません。1部門(教室、グループ等を含む)からは、同一プログラム1名の応募。別の助成プログラムであれば応募できます。なお、医学系研究助成は5領域に分かれていますが、1つのプログラムとして取り扱います。
3.	Q : 昨年度に研究助成贈呈対象となった研究者が所属する科から、別の研究者が本年度の研究助成に応募できますか。
	A : 贈呈対象となった研究および類似のテーマでの応募はご遠慮ください。昨年の贈呈対象研究と異なった研究内容・テーマについては応募できます。
4.	Q : 現在留学中ですが、海外から応募できますか。
	A : 海外からは応募できません。本年度中に日本に帰国し国内で研究されるケースなど応募いただける場合もありますので財団事務局にご相談ください。
5.	Q : 非常勤講師ですが、応募できますか。
	A : 所属先に在籍していること、所属長からの推薦が得られること、採択された場合に助成金を受け入れる仕組みが所属機関にあることを全て満たしてしましたら、応募できます。
6.	Q : 特定研究助成の代表申請者となっていますが、他のプログラムへ応募できますか。
	A : 異なる研究テーマでしたら他のプログラムへ応募できます。
7.	Q : 特定研究助成での1機関とは、大学、センター、研究所それぞれを1機関と考えて良いですか。
	A : 大学全体として1機関です。推薦者(所属機関長)は総長・学長とお考えください。
8.	Q : 特定研究助成の応募資格で、研究機関が総力をあげて取り組む共同研究とありますが、1研究室での応募はできますか。
	A : 特定研究助成は、学内または複数研究機関による融合研究を考えています。例えば、同一大学内での基礎教室と臨床教室の共同研究、複数大学の共同研究、大学と関連機関での共同研究などを想定していますので、1研究室では応募できません。

9.	Q :	工学部に所属し、医学領域における基礎研究に携わっています。医学系研究助成へ応募できますか。
	A :	応募できません。 医学系研究助成は国内の大学医学部および大学の医学系研究部門または、その他の医学系研究機関に所属する研究者が応募できます。
10.	Q :	医学部に所属していますが、生命科学研究助成へ応募できますか。
	A :	応募できます。
11.	Q :	医学部に所属していますが、ライフサイエンス研究助成に応募できますか。
	A :	応募できません。 ライフサイエンス研究助成は、医学・歯学・薬学系以外の大学および研究機関に所属する生命科学分野の研究者が応募できます。
12.	Q :	歯学部にも所属しています。個人としてどのプログラムに応募できますか。
	A :	生命科学研究助成、医学系研究助成、特定研究助成、ビジョナリーリサーチ助成のいずれかに応募できます。
13.	Q :	医学系研究助成への応募を考えています。臨床部門に所属していますが、基礎研究で応募する場合、医学系研究助成の「臨床」に応募できますか。
	A :	研究課題の内容で判断してください。研究課題の内容が基礎である場合は「基礎」へ応募してください。
14.	Q :	武田報彰医学研究助成の応募要領等が財団ウェブサイトに掲載されていませんが、どこで入手できますか。
	A :	武田報彰医学研究助成は、当財団の理事、評議員等による推薦制の助成プログラムです。応募書類一式は推薦者にお届けしております。

【推薦者について】

1.	Q :	大学教授ですが、所属部門の長（所属長）として、誰の推薦が必要ですか。
	A :	大学教授の所属部門の長は組織によって異なりますが、研究科長、学部長、学長等の推薦を想定しています。
2.	Q :	准教授ですが、誰に推薦してもらえばよいですか。
	A :	所属部門の長である教授の推薦と考えています。 (講師、助教、医員の方も同様)
3.	Q :	1 推薦者が推薦できる候補は 1 件のみですか。
	A :	1 助成プログラムにつき 1 件のみの推薦としています。異なるプログラムでしたら複数の候補者の推薦ができます。(例：医学系研究助成 1 件、生命科学研究助成 1 件)
4.	Q :	応募申込者が教授で年齢等の応募条件を満たす場合、自薦できますか。
	A :	自薦はできません。所属長の推薦が必要です。

5.	Q :	教授が研究科長、学部長、研究所長、病院長などを兼務している場合は、2 件の候補者を推薦できますか。
	A :	推薦できません。 1 助成プログラムに 1 件のみの推薦としております。2 件以上推薦された場合は、受付順位の早い候補 1 件を受け付けます。
6.	Q :	医学系研究助成のがん領域（基礎・臨床）、精神・神経・脳領域、感染領域、基礎、臨床の各々に推薦できますか。
	A :	医学系研究助成として 1 つの助成プログラムと考えていますので 5 分野のなかで 1 件しか推薦できません。
7.	Q :	講座の教授が空席の場合は准教授の推薦で良いですか。
	A :	准教授の推薦で結構です。

【記載内容等について】

1.	Q :	所属の記載は大学院医学系研究科で良いですか。
	A :	大学院医学系研究科代謝内科学、消化器外科学など詳細に記載してください。推薦者の所属も同様に詳細に記載してください。
2.	Q :	医学系研究助成では研究要旨の記載は 4 ページ以内となっておりますが、5 ページになっても良いですか。
	A :	4 ページ以内で記載してください。
3.	Q :	主な共同研究者は記載する必要がありますか。
	A :	必要な場合のみ記載してください。ただし、特定研究助成は記載が必須です。
4.	Q :	共同研究者の論文も文献として記載する必要がありますか。
	A :	特定研究助成以外の研究助成は、記載は不要です。
5.	Q :	共同研究者には年齢等の応募資格に準じるような制限はありますか。
	A :	共同研究者に制限は特にありません。
6.	Q :	研究要旨に図表を入れても良いですか。
	A :	必要であれば挿入していただいて結構です。

【電子申請について】

1.	Q :	郵送、Eメールでの申請はできますか。
	A :	郵送、Eメールでの申請はできません。 当財団ウェブサイトから電子申請にて応募をお願いします。
2.	Q :	応募者、推薦者の押印はどうすればいいでしょうか。
	A :	押印の後、PDF ファイルにて添付してください。
3.	Q :	応募締切は4月4日の何時までですか。
	A :	4月4日24時まで受け付けます。

【助成金について】

1.	Q :	所属機関では、10%の間接経費を徴収されます。助成金を個人で受け取れませんか。
	A :	所属機関に受入れルールがある場合は、所属機関での受入れとなります。所属機関のルールに従ってください。
2.	Q :	間接経費免除に関する依頼文書を財団から出してもらえますか。
	A :	理事長名で免除依頼文書を出すことは可能です。ただし、当財団からの間接経費免除のお願いに関する判断は所属機関により異なります。
3.	Q :	現在、大学病院に所属して留学中です。収支報告に海外での研究費用が含まれても良いですか。
	A :	財団では用途を特に制限しておりません。対象研究の研究費用であること、ならびに所属機関のルールに則って使用いただくこととしています。
4.	Q :	助成金を人件費に使用することはできますか。
	A :	財団では用途を特に制限しておりません。対象研究の研究費用であること、ならびに所属機関のルールに則って使用いただくこととしています。
5.	Q :	他大学に転出することになりましたが、助成金を移すことは可能ですか。
	A :	現在、在籍されている所属機関のルールに従ってご対応ください。 また、助成金を移された場合は当財団にご連絡をお願いします。
6.	Q :	助成金の使用期限はありますか。
	A :	助成金の使用期限は、特に定めておりません。
7.	Q :	特定研究助成の助成金は申込機関として一括管理する必要がありますか。
	A :	応募申込代表者の機関で一括受入および管理をお願いします。他施設への分割が必要な場合は代表機関から分割してください。

8.	Q :	助成金はいつから使用できますか。
	A :	振込次第、使用いただいて結構です。

【研究結果報告について】

1.	Q :	研究助成に採択された場合の研究結果報告について教えてください。
	A :	研究結果報告・収支報告書を提出していただきます。詳細は採択通知時にご連絡します。(研究助成：報告期限は採択年度から3年目の5月末)

【その他】

1.	Q :	採択後に所属が変更になりました。連絡方法を教えてください。
	A :	新しい所属先機関名、連絡先等を財団ウェブサイト（お問い合わせ）からご連絡ください。

以上